

屈折検査について

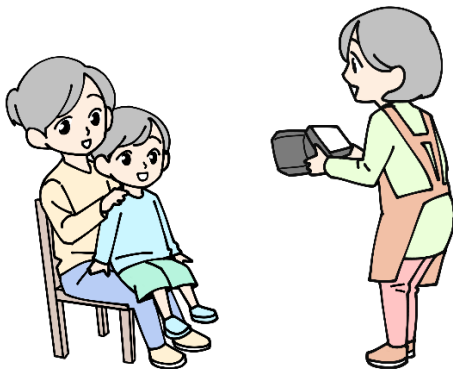
◆屈折検査はなぜ必要か◆

- 子どもの目の機能は6歳ころまでにほぼ完成します。しかし、乳幼児は見えにくさを自覚していないことが多く、家族も気づきません。よって、3歳8か月児健診において弱視や斜視を発見し、治療を始めることがとても大切です。
- 従来の視力検査だけでは目の異常を見逃してしまう恐れがありますが、屈折検査を行うことで、見逃しを減らすことができます。
- 屈折検査は弱視、斜視、眼疾患の早期発見に役立ちます。

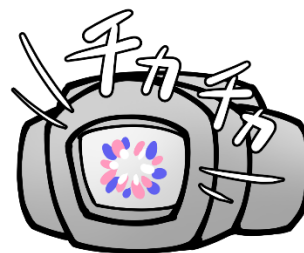
◆屈折検査の方法◆

- 健診では、携帯型の屈折検査機器を使います。少し暗いお部屋で、お子さんは保護者の方と一緒に座った状態で、機器の点滅する視標を見るだけです。お子さんの視線が合えば、数秒で検査は終わります。（あらかじめ準備していただくことはありません）
- この検査では、目のピントが合うために必要な度数（屈折）を調べます。
*機器での測定には誤差や限界があります。

<検査のようす>



<屈折検査機器>



◆もし、屈折検査で異常を指摘されたら◆

- 眼科を受診して精密検査を受けましょう。
- 子どもの目の病気は本人が不自由を訴えないことが多く、治療が手遅れになってしまう恐れがあります。見え方に問題がないようでも、必ず眼科を受診しましょう。